

中期経営計画

2024～2028年度

横浜川崎国際港湾株式会社

2024.12.20



目次

1. 前回計画期間の総括
2. 当社の目指す姿・取り巻く環境
3. 経営理念、経営方針
4. 計画概要
5. 計画目標

1

前回計画
期間の総括





■ 前回計画期間の総括(2021年度～)

ターミナルの整備、運営

- ・本牧ふ頭コンテナターミナルの再整備を推進し、D-5コンテナターミナルについては2025年秋頃に一部完成予定
- ・本牧ふ頭・大黒ふ頭に再生可能エネルギー由来の電力を導入したことにより、ターミナルにおける脱炭素化が大きく推進

航路誘致、集貨、創貨等の取組

- ・新たな国際基幹航路の誘致にむけ、国土交通省や阪神国際港湾(株)と連携し海外主要船社へのトップセールスを初めて実施
- ・東南アジア諸国を中心とした国際トランシップ貨物量の増加に向け、国土交通省及び港湾管理者と連携し、タイ・バンコクにおいて物流セミナーを開催
- ・横浜港・川崎港への貨物の集約にむけ、北海道、東北の東日本を中心とした、国際フィーダー網強化に向けた支援を実施するとともに、物流セミナー等を開催
- ・国際トランシップを中心とした、各種インセンティブを実施したことによりコンテナ取扱量が増加
- ・日本で唯一の直航サービスである北米東岸・中南米航路が横浜港に寄港

組織運営

- ・海事専門家や物流分野の専門人材を採用し、組織体制を強化
- ・継続的な海外研修への派遣や国際フォーラム等への参加を通じた、グローバル人材の育成



前回計画期間の総括(2021年度～)

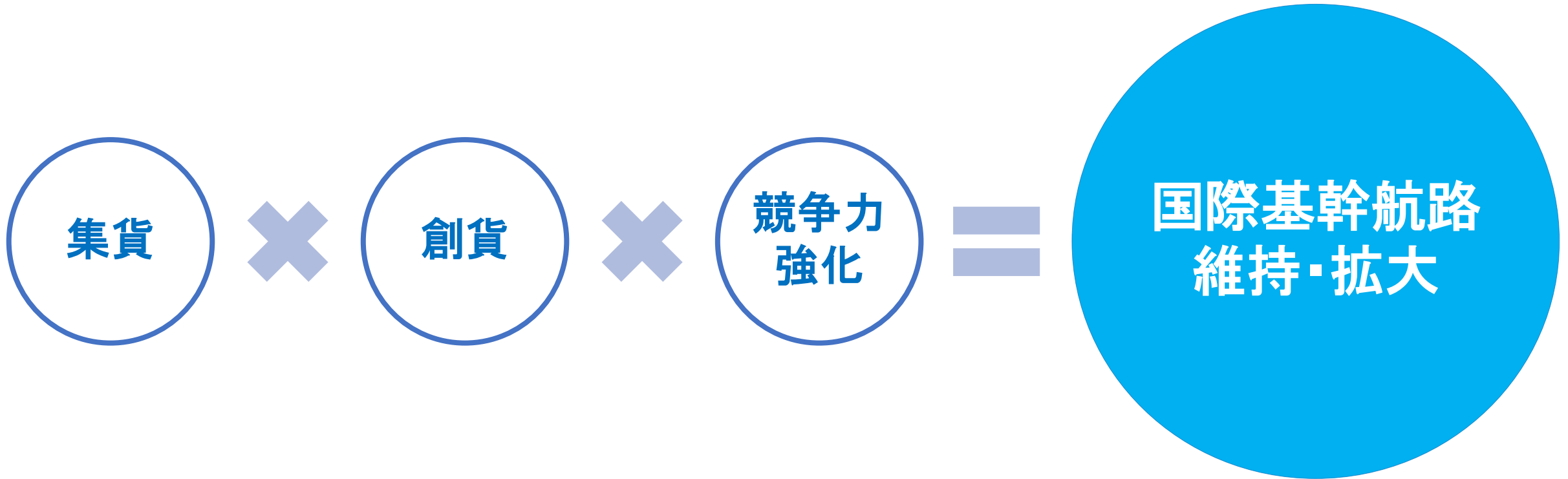
貨物量・航路数	前回目標（～2025年度）	現状
取扱コンテナ貨物量	<u>340万TEU</u>	312万TEU(2023年速報値)
国際基幹航路数 (北米、欧州、中南米、豪州、アフリカの各航路の計)	<u>20航路以上</u>	15航路(2023年度)
施設整備	前回目標（～2025年度）	現状
南本牧MC-3東側(拡張部)	<u>2020年代前半</u> に供用予定	整備推進中
本牧D5ターミナル	<u>2020年代前半</u> に供用予定	2026年度完成に向けて整備中
本牧BCターミナル	<u>整備促進・早期供用</u>	整備推進中
新本牧ふ頭	<u>整備促進</u>	整備推進中
財務状況	前回目標（～2025年度）	現状
自己資本比率	<u>10%以上を維持</u>	24.1%(2023年度末時点)

2

当社の目指す姿

取り巻く環境

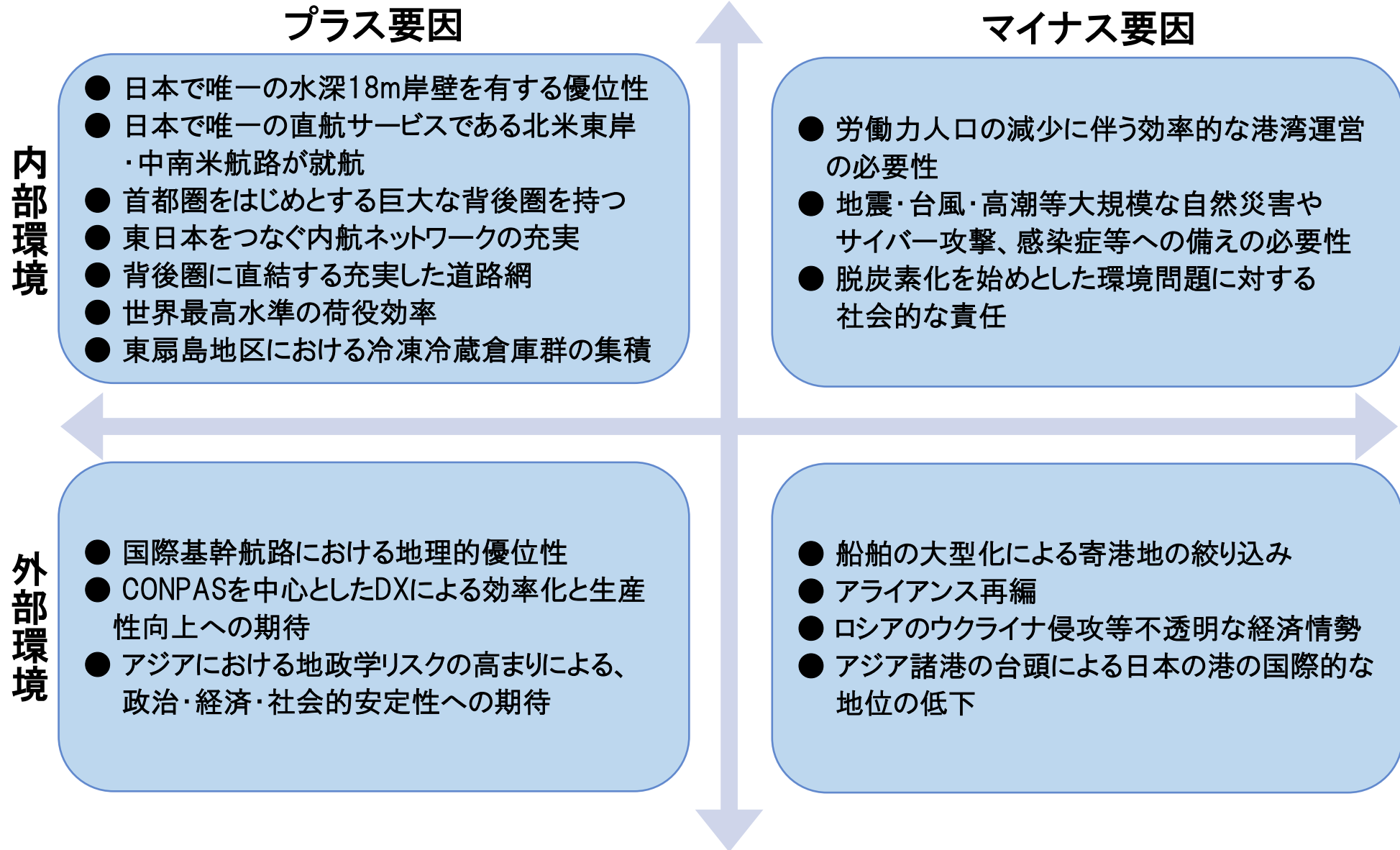




国際コンテナ戦略港湾政策を推進することで、
国内経済・産業の国際競争力強化に寄与



京浜港を取り巻く環境 -SWOT分析-



3

經營理念
經營方針





わたしたちは、日本の国際ハブポートである京浜港の国際基幹航路の維持・拡大を通じて、我が国の産業競争力の強化・国力増強に貢献していきます。



横浜港全景 航空写真(横浜市港湾局提供)



川崎港東扇島ふ頭 航空写真(川崎市港湾局提供)



経営方針

① 国際コンテナ戦略港湾施策の推進

～日本一の総合港湾を目指した、競争力のあるコンテナふ頭群の整備・運営～

我が国最高水準のコンテナターミナルを活用し、海運動向を的確に捉えて船舶の大型化に対応していくとともに、ターミナルの再編・整備やAI等の技術の採用により、効率的な運営を進め、付加価値の高いターミナルを実現します。

京浜港の港湾運営会社として、国内やアジア諸国からの集貨を進め、多方面・多頻度の直行サービスを充実させることで、我が国のサプライチェーンの強靱化を図り、グローバルに展開する我が国立地企業のサプライチェーンマネジメントに貢献していきます。

② 事業活動を通じた社会の持続的な発展への貢献

サプライチェーン全体の脱炭素化に取り組む荷主等のニーズに対応し、コンテナターミナルにおける港湾施設の脱炭素化等の取組を進めることで、船社等から選ばれるコンテナターミナルを形成していきます。

地震、台風などの災害時にも最低限の物流機能が確保でき、迅速に機能の回復が図れるよう、防災・減災に取り組み、国、港湾管理者及び横浜港埠頭(株)等と連携し、BCPの更新等を通して危機管理体制を強化します。また、近年国内外で発生しているコンテナターミナルへのサイバー攻撃事案を踏まえ、京浜港における港湾運営会社の果たす役割について国や港湾管理者等とともに検討するとともに必要な対策を実行していきます。

③ 経営基盤の安定と発展的な事業運営

当社で実施する様々な取組を着実に進め、財務の安定化を図るため、自己資本の充実に努めます。また、コンテナターミナルの付加価値を高める新たな取組を検討し、実現に向けて取り組んでいきます。それらの取組を実施するための組織体制の強化を行うとともに、専門知識やノウハウを持ち、世界的な視野に立って事業を推進できる人材の育成を進めます。

4

計画概要





国際コンテナ戦略港湾施策の推進

日本一の総合港湾を目指した
競争力のあるコンテナふ頭群の整備・運営

①

我が国最高水準の
コンテナターミナルの整備

船舶大型化等の国際海運動向
や利用者ニーズに的確に
対応するスピード感を持った
コンテナターミナルの再整備と
新たなターミナルの整備

②

コンテナターミナルの
効率的な運営の推進

コンテナターミナルの再編
拡張等による利便性向上
と先端技術の導入による
生産性の向上

③

航路の誘致と
集貨・創貨の促進

国内外からの貨物の集約等
による国際基幹航路の
維持・拡大とターミナルの
利便性向上に向け国際物流
拠点の形成を促進

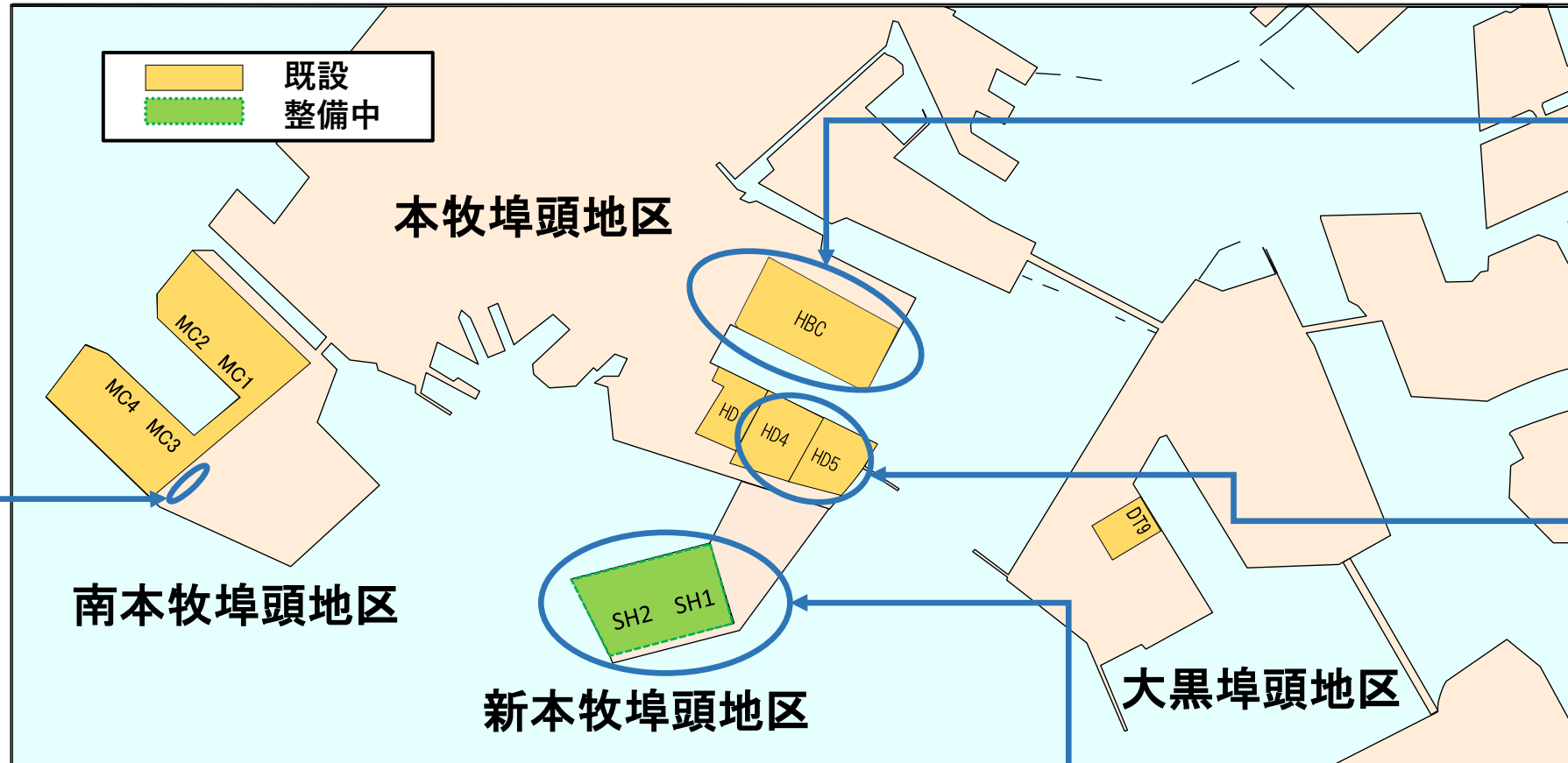
国際海運需要に対応した、利便性の高いターミナルを実現



計画概要

① — ① 我が国最高水準のコンテナターミナルの整備

コンテナターミナルの再整備等における建築物やガントリークレーンなどの施設の整備・更新及び大水深岸壁を擁する高規格コンテナターミナルの整備推進



(2)
本牧BCターミナル
の再整備

(1)
本牧D-4, D-5ターミナル
の再整備

(3) 南本牧MC-3ターミナル東側（拡張部）の整備

(4) 新本牧コンテナターミナルの整備

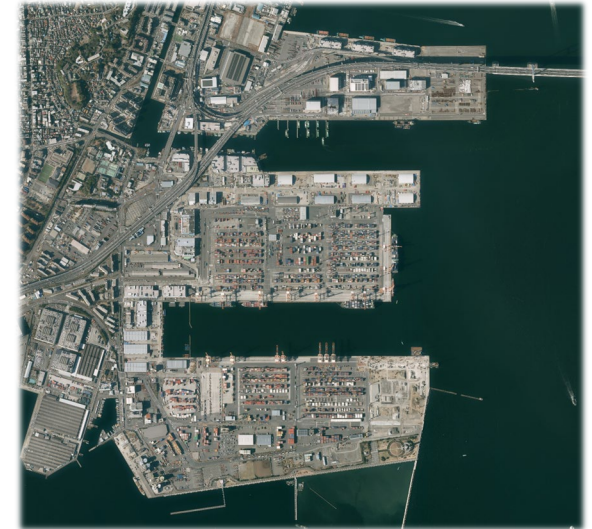


計画概要

① — ② コンテナターミナルの効率的な運営の推進

ふ頭の再編・整備によるコンテナターミナルの効率性・利便性の向上
DX技術等の導入による労働者の働き方改革及び生産性の向上

- (1) 南本牧ふ頭の一体運営の促進
- (2) 本牧ふ頭の効率的な運用に向けた、一体的運営の検討
- (3) 大黒ふ頭の機能転換の推進
- (4) 施設の計画的かつ効率的な維持管理
- (5) 労働者の働き方改革や生産性の向上に資するDX技術等の導入推進
- (6) 関連施設との一体運営による東扇島ふ頭の利便性の向上
- (7) CONPASの活用によるコンテナ搬出入の効率化
- (8) 海上コンテナ輸送の効率化に係る関係機関との連携確保



横浜港本牧ふ頭（横浜市港湾局提供）



横浜港南本牧ふ頭 CONPAS



計画概要

① 一 ③ 航路の誘致と集貨・創貨の促進

利用促進策と 戦略的なポート セールスの展開

- (1) 国際基幹航路の新規誘致等に向けた取組
- (2) 東日本を中心とした広域からの貨物集約に向けた取組
- (3) アジア諸国を中心とした国際トランシップ貨物量の増加に向けた取組
- (4) 創貨に向けたロジスティクス機能の強化に資する取組
- (5) 国土交通省や港湾管理者と連携したトップセールスを含む国内外ポートセールスの継続
- (6) 東扇島地区立地事業者等と連携した集貨促進策の推進
- (7) 国際基幹航路の維持・拡大等が図られるコンテナターミナルの貸付条件を検討
- (8) 海外コンテナターミナルの動向等に関する情報収集と必要な対策等の検討



横浜川崎港湾セミナー in バンコク



川崎港東扇島ふ頭 コンテナターミナル
(川崎市港湾局提供)

国際物流拠点 形成の促進

- (1) 国際物流拠点の形成による創貨の促進



計画概要

② 事業活動を通じた社会の持続的な発展への貢献

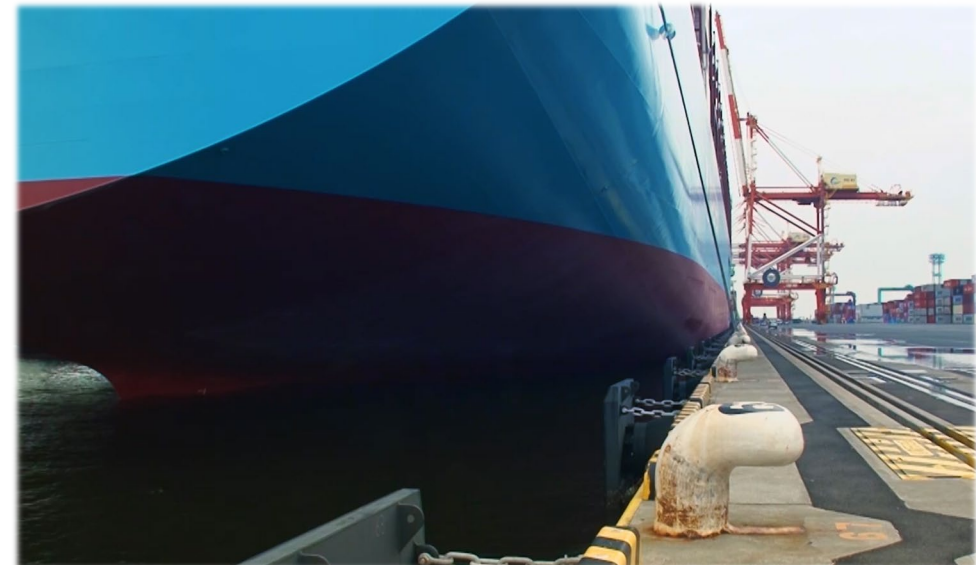
事業活動を通じた社会の持続的な発展への貢献

- ① 環境にやさしく、災害等のリスクに強い港づくり
地球環境にやさしい施策及び災害やサイバー攻撃事案発生時等に
社会活動の早期の復旧を支える強靱なインフラ整備を推進

GXにより低炭素化を推進し、安全・安心で、選ばれるターミナルを実現



メタノールバンカリングシミュレーションや
メタノールバンカリング拠点のあり方検討会に参画



横浜港南本牧ふ頭 耐震強化岸壁



計画概要

② ー ①環境にやさしく、災害等のリスクに強い港づくり

環境に やさしい 港づくり

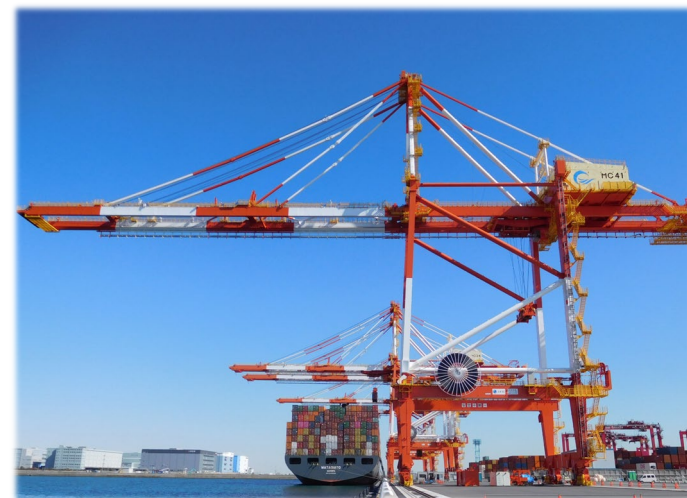
- (1) 次世代燃料のバンカリングの推進
- (2) カーボンニュートラルポート形成の推進

災害等の リスクに 強い港 づくり

- (1) 施設の耐震化・免震化の推進
- (2) 高潮、悪天候等に備えた施設の災害対策の推進
- (3) 施設の計画的かつ効率的な維持管理【再掲】
- (4) 自然災害や感染症等の様々なリスクを想定したBCPの更新
- (5) 海外主要港のサイバーセキュリティ対策についての情報収集及び対策の検討



横浜港本牧ふ頭
再生可能エネルギー由来の電力を導入



横浜港南本牧ふ頭
免震装置付きガントリークレーン



経営基盤の安定と発展的な事業運営

①

財政基盤の強化

災害時や経済変動による危機においても、安定的にターミナルを管理運営できるよう、自己資本を充実

②

新たな事業展開の模索

脱炭素関連事業等への展開や海外港湾への運営参画等を推進

③

組織力の強化及びグローバルな人材育成

国際コンテナ戦略港湾施策を着実に推進する組織力の強化及び海外団体等との交流によるグローバルな組織風土の醸成と人材育成

経営基盤の強化による安定的かつ先進的なターミナル運営の確立



① 財政基盤の強化

財政基盤の構築・充実

- (1) 内部留保の積み上げによる自己資本の充実
- (2) 適切な経営判断の為の中長期的な財務シミュレーションの実施

② 新たな事業展開の模索

新規事業の構想・検討

- (1) コンテナターミナルの付加価値を高める新たな取組の検討

③ 組織力の強化及びグローバルな人材育成

組織体制の強化及び海外との積極的な交流を通じた人材育成

- (1) 大型コンテナ船の寄港の要望等に迅速に対応できる海事専門家や、ロジスティクス分野の専門人材の採用等による体制強化
- (2) 関係団体との人事交流を含めた優秀な人材の確保による、持続的な組織体制強化とコンプライアンスの徹底
- (3) 国際的な情報の収集や発信を推進するための人材育成
- (4) デジタル技術を活用した業務効率化の実施

5

計画目標





計画目標

貨物量・航路数※		現状	2028年
取扱コンテナ貨物量		312万TEU(2023年速報値)	<u>340万TEU</u>
国際基幹航路数 (北米、欧州、中南米、豪州、アフリカの各航路の計)		15航路(2023年度)	<u>18航路以上</u>
施設整備			
南本牧MC-3東側(拡張部)	<u>整備推進</u>		
本牧D5ターミナル	<u>2026年度完成</u>		
本牧BCターミナル	<u>整備推進</u>		
新本牧ふ頭	<u>整備推進</u>		
			
横浜 新本牧ふ頭イメージ (横浜市港湾局提供)			
財務状況		現状	2028年度
自己資本比率		24.1%(2023年度末時点)	<u>10%以上を維持</u>

※貨物量・航路数については、運営計画の“国際基幹航路に就航する外貿コンテナ貨物定期船の寄港回数の維持又は増加に関する目標”より主要なものを抜粋して記載しています。